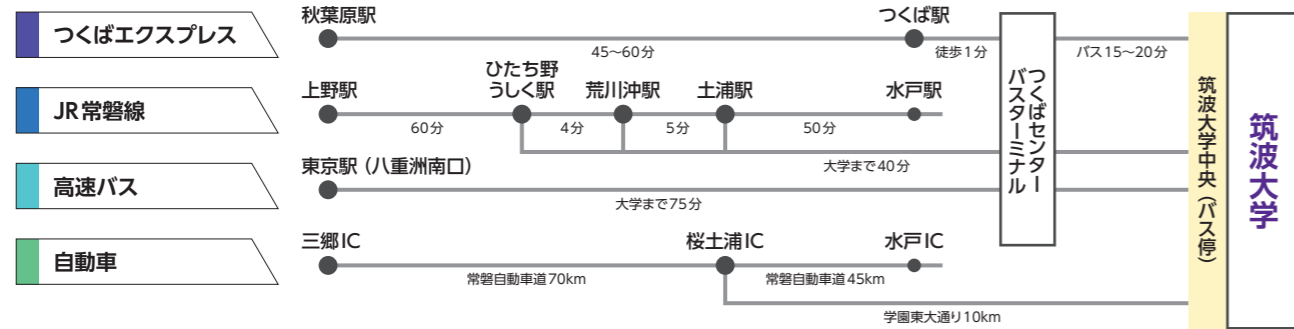




● 筑波大学までの交通

Access



人間学群

School of Human Sciences

入学案内 2024

ADMISSION GUIDE

● 教育学類

College of Education

● 心理学類

College of Psychology

● 障害科学類

College of Disability Sciences

筑波大学入学試験に関するお問い合わせ先

筑波大学 教育推進部 入試課
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL 029-853-6007 FAX 029-853-6008



<https://www.tsukuba.ac.jp/admission/>



筑波大学人間学群 ウェブサイト

<https://www2.human.tsukuba.ac.jp/gakugun/>



人間を研究することの意味

21世紀に生まれたみなさんにとって、現在の社会はどのように見えているでしょうか。デジタル・トランスフォーメーション(DX)をはじめとする情報化や機械化が進み、買い物は貨幣を使わずに精算できますし、交通も切符を買うことなく乗車できます。そもそも、ネットショッピングやオンライン通信、VRを使えば、自らが動くことなく買い物や交流、観光も可能です。私たちは機械やロボットが代行することで、危険な業務や単純な作業からの解放や、個人ではできないような計算や問題解決といった、便利な生活を手に入れています。

しかし、それは人間という存在を不要にしかねない危険性を持ち合わせています。買い物客や乗客が来なければ、商店や交通機関は経営が成り立たず、企業も人件費を削減するために機械化をいっそう進め、その結果雇用を控えて失業者が増えるかもしれません。また、メタバース上でアバターが参加して、仕事や勉強、スポーツやゲームをすることも、みなさん自身が経験していることでしょうか。人間の暮らしを良くしようと努力していたはずが、人間がいない、見えないことを社会も個人も志向するという、不思議な時代が到来しているのです。

このような世の中において、人間について学び研究することは、これまで以上に重要な役割を担っています。人間の行動や思考のメカニズムを明らかにすることは、こころや感情といっ

た目に見えない部分を解明するだけでなく、実生活やAI・機械に応用するという意味でも価値ある研究です。それとともに、人間どうしが関わり伝えあうことの意義や方法、個人と社会の関係といった、人間のあり方や生きざまを問い続けることも、これからの社会における重要な課題となっています。

人間学群は、東京高等師範学校、東京文理科大学、東京教育大学という歴史を受け継ぎつつ、1975年に第二学群人間学類として設立され、2007年の組織改編を経て現在に至っています。日本の教育学、心理学、障害科学の研究と教育をリードしつつ、人間を科学的に追求し、その本質を究明する人間学群の原点を大切にしながら、みなさんと一緒に50周年という記念すべき節目を迎えたいと思っています。

人間学群長 樋口 直宏



School of Human Sciences

教育の理念

各学類の人材養成目的は、以下の通りです。

●教育学類

人間形成、学校教育開発、教育計画・設計、地域・国際教育にかかわる教育学の専門的知識・技能を活用し、学校、自治体、民間機関、国際機関など様々な分野で貢献できる人材、研究能力を有する人材を養成します。

●心理学類

人間のこころと行動に関する幅広い興味と関心を基盤に、人間のこころと行動を科学的・実証的に分析し理解する姿勢及び専門的な知識や技能を身につけ、さらに、これらの学習成果を生かして、実際の問題を主体的かつ創造的に解決する能力を有し、国際的にも通用する知性・人間性・逞しさを備えた人材を育成します。

●障害科学類

乳児から高齢者までの感覚、運動、認知、言語などの機能の障害、健康や高齢・発達に関わる障害、障害をめぐる環境や社会・文化的課題に関する基礎的知識と支援方法を、教育・心理・福祉・医療などの領域から総合的に身につけ、共生社会の創造に貢献する、国際的に通用する能力をもつ人材を養成します。

教育の方針

人間学群では、先達の築いた伝統を真摯に受けとめつつも、新たな時代における国際的、または今日的な課題の解決に貢献する人材の育成に努めています。そのために、特に次の三つの点を重視しています。

第一は、学群コア・カリキュラム(専門基礎科目)です。人間学群の学生は、学類横断型の科目の履修を通じて、基礎的、実的な学びを修めます。たとえば、「人間学」では、これからの新しい社会における人間のあり方や生き様について学問的に追究していきます。また、「キャリアデザイン入門」では、多様な分野で活躍する卒業生を招聘し、毎回現実社会における様々な問題やその解決への姿勢・熱意を伺いながら、自らの将来を展望します。さらに「人間フィールドワーク」では、学外での活動や教員の主宰する研究会への参加を通じて、関心のある分野への実践的な学びを深めます。

第二は、少人数の指導体制による、きめ細かな指導の実現です。人間学群の学生定員は、一学年120名と、筑波大学の中では小規模の組織です。これに対して、幅広い分野にわたる十分な人数の教員が対応しますので、きめ細かな指導を行う環境となっています。加えて、1年生から4年間持ち上がるクラス担任制度により、学生の学修上、あるいは生活上の悩みにも速やかに対応できる体制をとっています。

第三は、学内外の資源を活用した指導の実施です。筑波大学は、教育学、心理学、障害科学に係る学群(学士課程)から大学院までを有する、全国で数少ない大学の一つです。人間学群での学修を博士前期・後期課程へと誘い、一貫したカリキュラムの下で専門性の高度化と学際化の実現を目指しています。また、筑波大学では小・中・高等学校および特別支援学校を擁しています。これらの附属学校は、大学での理論的学修を実践や応用へと架橋する貴重な場であり、附属学校での学習機会を積極的に導入して、教育研究の深化に活かしています。さらに、海外の協定校との交流も積極的に取り組んでいます。例えば、ホーチミン市師範大学(ベトナム)、東北師範大学(中国)、釜山大学(韓国)、モスクワ市立教育大学(ロシア)、嘉義大学(台湾)、オハイオ州立大学(アメリカ)といった大学を訪問して、学生との交流や学校・施設等を視察を通じて学生の視野を広げています。

人間学群の授業では、常に自らの考えを持ち、それを教員や他の学生に明確に伝えることが要求されます。学生が成長するために、教員は支援を惜しみません。それは、人間に対する深い理解と支援を行う専門家であるという責任を、全教員が自覚しているからです。

目次 Contents

- 1 学群長挨拶
- 2 教育の理念・教育の方針
- 3 学類融合
- 5 つくばの4年間
- 7 在学生にインタビュー
- 9 教育学類
- 13 心理学類
- 17 障害科学類
- 21 海外交流
- 22 大学院
- 23 卒業後の進路
- 25 取得可能な免許・資格
- 26 卒業生からのメッセージ
- 27 教員紹介
- 29 入試情報・オープンキャンパス・施設紹介・Q&A

学類融合

人間学群では「教育学類」「心理学類」「障害科学類」の3学類で連携して教育や研究を行っています。



教師の実践(授業)とそれを取り巻くマクロな要因

海外の教育と日本の教育との比較にもとづいた途上国の教育支援

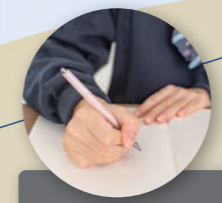
オンライン授業のより良い方法やICTの効果的な活用法



教職の専門性とは?

移民の若者の居場所づくりやエンパワメント

マイノリティの言語的人権の保障の理念や実態は?



教育とジェンダーの問題

障害児童生徒の特有のニーズにも対応したインクルーシブ教育とは?

言語習得・学習の認知メカニズム

モデル動物を使ったアプローチ

児童生徒の心理とは?

子どものやる気のメカニズム

社会の中でのキャリア発達のあり方

未来の自分と過去の自分のつながり

学校で困ったことが起きたら、どうやって介入すればいいの?

いろいろな人が共に学べる教育環境

発達障害者に対するICTツールを活用した支援技法とその有効性

特別支援教育推進に関する教育的・行政学的研究

ナチス期ドイツでユダヤ人障害者はどのような生活をおくっていたの?

においなどの感覚はこころや行動にどう影響するの?



かわいいと感じることのさまざまな効用

認知行動療法、自律訓練法などさまざまな支援の方法

コロナ禍におけるレジリエンス

様々な特性をもつ学生が受けやすい授業の形は?

セクシュアル・マイノリティの高等教育における支援

高齢期の知的障害者の地域生活の支え方は?



他の人に関する情報が脳の中で処理されるしくみ

支援の役に立つポジティブ心理学

青年期のメンタルヘルスを支える方法

AIの教育・心理・障害への活用

行動分析学の枠組みに基づく環境整備や支援

高齢者の認知機能

薬物依存やギャンブルはどのようなメカニズムでおこるの?

攻撃行動の脳内メカニズム

マウスをモデルにしたホルモンの働き

障害が起こるメカニズムは?



「早口言語症」の評価方法と支援

障害がある人の権利擁護、意思決定支援

つくばの4年間

入学から卒業まで4年間のスケジュール

はじめての一人暮らし。
宿舎やアパートでの生活も、
毎日が新鮮!



	1年次	2年次	3年次	4年次
入学				
授業	<p>講義を受けて、必要な知識を身につけよう。 筑波大学では、他の学群の講義も自由に受講できるんだ!</p> <p>一緒に学ぶクラスの仲間と親交を深めよう!! 困ったことは担任の先生や支援室に相談だ!</p>	<p>2年次に総合学域群から人間学群に移る人もいるよ!</p> <p>フィールドワーク、実験、実習、インターンシップなど 教室を飛び出す授業もたくさん!</p>	<p>教職をとった人は、3年生か4年生で教育実習へ! ※教員免許状:小・中・高等学校、特別支援学校取得を目指す場合</p>	<p>卒業要件はクリアした? 先生や職員さんといっしょに、単位のチェック!</p>
研究	<p>2年次から専門的な講義が本格的に始まるよ。 卒業研究に向けて、知識とテクニックを身につけよう。</p> <p>「人間フィールドワーク」の授業では、1, 2年生から研究会に参加することができる! 卒論以外で研究プロジェクトに参加する学生もいるよ! 気になる先生がいたら連絡してみよう。</p>	<p>授業での学びをもとに、自分が何に興味があるのか、どんな卒業研究をしたいか考えてみよう!</p>	<p>4年間の集大成!自分だけのテーマで、卒業研究に取り組もう。 研究を続けたいと思ったら大学院もあるよ!</p>	<p>就職や進学に向けての、ラストスパート。 実習や卒業研究との両立はちょっと大変だけど、夢に向かってがんばるぞー!</p>
課外活動	<p>大学の研究室や研究所でのバイトは「学園都市つくば」ならではの! 塾講師や家庭教師バイトで、教えるスキルを磨く人もいるよ。</p>	<p>文化系、芸術系、体育会系…。筑波大学には、サークルや部活がたくさん! 福祉やダイバーシティに関する活動をするサークルもあるよ。</p>	<p>大学院の説明会では、いろんな先生と話すことができるよ。 研究室が決まったら、進学の準備だ!</p>	
キャリア	<p>企業への就職や大学院への進学…自分にはどんな進路が向いているんだろう? 「キャリアデザイン入門」で先輩の話を聞いて考えてみよう。</p>	<p>交換留学、短期での海外研修など、筑波大学では世界にはばたくチャンスもたくさん。 海外渡航を支援する奨学金もあるみたいだから、気になる人は早めにチェックしよう!</p>	<p>自己分析、業界研究、インターンシップ…大学が主催する説明会やマッチングイベントもあるから安心だね!</p>	

年間スケジュール

学期の区分(2学期6モジュール制)

※1つのモジュールは、5週の授業日数を確保

- 春学期 A・B・Cの3モジュール
- 秋学期 A・B・Cの3モジュール

- 4月 April
 - 春学期開始(4/1~)
 - 入学式(4月初旬)
 - 春Aモジュール(4月上旬~5月下旬)
- 5月 May
 - 春季スポーツデー(5月中旬)
 - やどかり祭(5月末)
 - 春Bモジュール(5月下旬~7月初旬)
- 6月 June
 - 教育実習(3・4年次)(5月~11月)
- 7月 July
 - 春Cモジュール(7月初旬~8月上旬)
 - 大学院入試(7月~2月 学位プログラムにより異なる)
- 8月 August
 - 大学説明会(8月)
 - 夏季休業(8月中旬~9月末)
- 9月 September
 - 秋学期入学式(9月末)
- 10月 October
 - 秋学期授業開始(10/1~)
 - 秋Aモジュール(10月初旬~11月上旬)
- 11月 November
 - 雙峰祭(11月上旬)
 - 秋Bモジュール(11月上旬~12月末)
 - 秋季スポーツデー(11月下旬)
- 12月 December
 - 冬季休業(12月末~1月初旬)
 - 秋Cモジュール(1月初旬~2月中旬)
- 1月 January
 - 春季休業(2月中旬~3月下旬)
- 2月 February
 - 卒業式(3月下旬)
- 3月 March

つくばの4年間

Interview 1

ひとつ言うとみんなが足してくれて10になる感じ

教育学類 4年

田中 礼美さん
Tanaka Remi

小学5・6年の時の先生に憧れ、将来は小学校の先生になりたいと考えていました。筑波大学教育学類は高校の担任からの勧めですが、教員養成だけでなく幅広く教育学を学べるので、ここに決めてよかったと思います。特に附属小学校での教育実習は、普段の授業や演習だけでは得られない経験を経験することができました。臨機応変な対処は難しいところがありながらも、自分で授業を一から組み立てたり、児童からの反応の返るスピードを肌で感じたりできたことは、やっぱり現場でしか得られない財産です。印象に残っているのは理科の授業で、星の明るさや色を教えた時のこと。説明や言葉だけでなく、実感を伴って理解させたいと、さそり座の見え方をそれぞれに描かせたところ、みんな違うんですね。ひとりひとりの絵を見ながら話し、教えることで、子どもたちが「そうなんだー」って。解ってくれたと信じてます(笑)。

この3年間は、zoomなど学習や友人との繋がり方の手段が増えたり、いろんな手間も増えてきましたが、これまでの当たり前を疑うこともできるようになりました。例えば校則って本当に必要な?とか、教育現場での視点の持ち方はこれでもいい?とか。

今年はこれまでに出来なかった海外旅行などもしてみたい。

〈受験生へ〉成績の比較や否定をされることもなく、寛容な人に囲まれて楽しいです。私がひとつ言うとみんなが足してくれて10になる感じ。安心してきてくださいね。



Interview 2

空気を読むの『空気』ってなーに?

心理学類 3年

岩淵 莉乃さん
Iwabuchi Rino

子どもの頃から人と自分の考え方の違いやズレについて興味があり、それを学びたいと思っていたところ筑波大学の心理学に辿り着きました。たくさんのオープンキャンパスに参加しましたが、筑波大学の研究施設が一番整っていたのもポイントで受験を決めました。

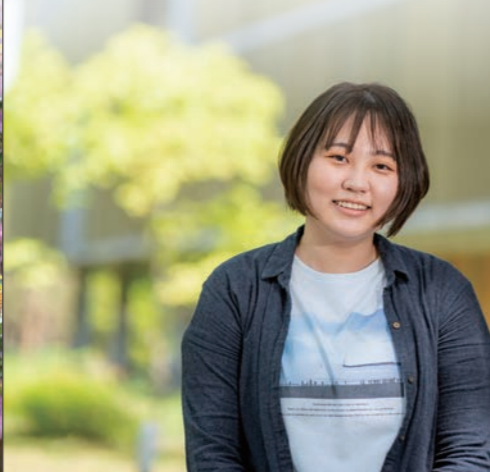
心理学類は理系文系の枠も無く、知識や思考の仕方がみんなバラバラ。でもそれが面白くて。「空気を読むの『空気』」を研究するのに、人間を対象とするのは少しきついな、と思っていたところ、フレッシュマンセミナーで仲田先生が動物で集団行動の実験をしている。私の研究もマウスからアプローチできるかも!とピンときてゼミに飛び込みました。

ゼミでは4~5人でプロジェクトを企画し、実験の予定立て→実験→結果の解析→発表を行います。特に解析には時間を要するので、別のプロジェクトから助っ人がくることも。目に見えない「心」が数値によって可視化されるのにはとても高揚します。

当初、授業はオンラインでしたが、対面も増えてきて、広いキャンパスを自転車で移動するのもまた楽しいです。附属中央図書館にはスタバもあって、他大学に通う友人から羨ましがられています。

好きな言葉は「才能は開花させるもの、センスは磨くもの」(ハイキュー! 及川徹)

〈受験生へ〉大切なのは、貴方が何をやりたいか、それに必要なのは何か、だと思います。周り比べて焦ることなく、自分の心に忠実に向き合って、自分のペースで受験を乗り越えてください。



Interview 3

次は私がピア・チューターに!

障害科学類 2年

山本 彩佳さん
Yamamoto Ayaka

私は車椅子ユーザーです。日々生活している中で障害について考える機会があり、将来は障害者がより生きやすい社会を実現したい、そのための研究者になりたいと考えるようになりました。その思いを高校の担任に話したところ、日本で唯一の「障害科学」という学問を学べる筑波大学を勧められ、受験を決意しました。

障害科学類は、一学年35人程度の少人数の学類で、先生方の面倒見がとても良いです。授業の内容は、障害の定義や、海外の障害観の比較など、障害に関する様々な知識を得ることができます。友人たちと障害に対するそれぞれの考えを話し合う機会も多くあり、授業はとても面白いです。

筑波大学には「ピア・チューター」という障害学生を支援する活動があり、私もピア・チューターの養成講座で障害を持つ側の目線からアドバイスやサポートをしています。

サークルは以前から興味があった手話サークルとつくば鳥人間の会に所属しています。つくば鳥人間の会では、電装班に所属し、飛行機のコンピューター制御部分のプログラムを書いています。大学生になり、授業以外の活動の時間が増え急に世界が広がりました。

これからチャレンジしたいことは、私もピア・チューターになり、自分の夢の実現の第一歩として、障害学生支援により深く関わっていきたくて考えています。

〈受験生へ〉先生と学生の距離が近く、個性豊かで優しい人がたくさんいるので、楽しい大学生活が送れると思います。応援しています。



Interview 4

『T-ACT』でやってみよう!を実現

教育学類 4年

佐久田 幸空さん
Sakuta Yukitaka

教えるとは何か?!を学びたいのと、自分とは異なる考えを持つ人に会いたくて大学に進みました。教育学類は学際的で他学類の履修もでき、幅広く学べるのが魅力です。

T-ACT(つくばアクションプロジェクト)は学生の「やってみよう」を応援するプロジェクトです。やりたい活動を自ら企画したり、他の人の企画に参加したりすることで実現することができ、面白そうだなと思い参加しました。ここでは学生主催のフリーマーケットや、逃走中(ゲーム)、学習支援ボランティアの参加など様々なことが実現しています。

私は、オンライン性教育のワークショップを、1年の5月に企画し、翌年1月に実施しました。100名以上からの反響があり、当日は約70名が参加し、オンラインイベントではかなり盛り上がりました。また3年では実際の選挙を題材に、大学生に向けて模擬選挙を実施しました。今まで企画立案・運営の経験が全くないため、最初は不安でしたが、先生方のサポートのおかげもあり、実現できた時はやり遂げた達成感を非常に感じました。

現在はこうした経験も踏まえ、サポーターとして活動しています。他の学生の「やってみよう」を同じ目線で一緒に考え、実現の手助けをする時がとても楽しいです。

〈受験生へ〉やりたいと思ったら何でも挑戦できる所が大学だと思います。今は勉強で大変な時期だと思いますが、時々、大学でどんなことをしたいか考えてみるのもいいかもしれません。



Interview 5

興味を突き詰められる環境が嬉しい

心理学類 4年

長濱 奈甘乃さん
Nagahama Naano

小学生の頃からいつかちゃんと心理学を学びたいと考えていました。しかし、高校生になり、どんな心理学を学びたいのか、心理だけを学んでいて他に興味が出てきたら将来どうするのか、などたくさんの迷いが……。そんな時、「つくばの心理学」(先生方が自分の研究や関心についてのエッセイをまとめた冊子)を読み、絶対に筑波大学の心理に行きたい!とピピッときました。カウンセリングなどの臨床からマウスを用いた実験まで幅広く心理学を学べる上、他学類の様々な授業も受けられる筑波大学は、好奇心溢れすぎる私にぴったりでした。

コロナ禍でオンライン授業が多かったのですが、興味のままに様々な受講し、異なる心理学領域のそれぞれのスペシャリストの研究や、またデザインや起業など他分野も学びました。わかったことは、やっぱり私は心理学が好きなんだなあって(笑)。

現在は、夢だった沖縄科学技術大学院大学でリサーチインターンとして研究しています。大学生生活で得られた経験があったからこそ採用されたのだと思います。卒業研究も同時進行で非常にタイトですが、知的好奇心のままに興味を突き詰められる環境が嬉しいのです。このまま研究者になるのか、起業するのか、はたまた二足の草鞋を履くのか、まだ決められませんが、自分が大切にしたいことや得意なことは明確になったと感じています。

〈受験生へ〉受験勉強の息抜きに、大学に入学してキラキラとしている自分を思い浮かべてみるのはいかがでしょう。応援しています。



Interview 6

Eat, Sleep, Rowing, Repeat!

障害科学類 3年

後藤 光正さん
Goto Kosei

障害者との交流を持つ機会があり、障害について学べる大学を探していたところ、必然的に筑波大学が志望校になりました。履修の自由度も高いので、他学類の授業も取りやすく、時間が好きに使えています。

その時間を使うべく、4月の新歓では運動系のサークルや部活の体験をしました。中学ではテニス、高校は柔道をしていましたが、友人に誘われてたまたま行ったのがボート部。これまではその存在すら知らなかった漕艇ですが、部の雰囲気がとても良く、先輩たちの人間性に惹かれて決めました。想像以上にきつトレーニングにも打ち込んで、大会では仲間と共に成績を残すことができました。1年秋のオフシーズンからは主務を、現在は副将を務めています。ボート部には体育系はもちろん、医学系や理工系、文系など、男女問わずに様々な学生が在籍していて、人間関係を築く場にもなっています。学内には本格的なコースもあり、宿舎などで年中仲間と触れ合っていて、普通に過ごしていただければ出来なかった繋がりを持つことができました。学生生活、本当に毎日が楽しくて充実しています。

高校生の時よりも時間が自由に使える、色々なことにチャレンジできますが、その分、自己管理の力は求められるかな。一人暮らしをしていることもあり、たとえば日程や体調の管理、メールの確認など、ちょっとしたことでも全部自分でやる必要があります。

〈受験生へ〉運動好きなあなた!きみたち!お互いにリスペクトしあいながら鍛え、楽しい学生生活を送りましょう!





教育学類

College of Education



教育学類 学類長
佐藤 博志



筑波大学人間学群教育学類へようこそ。教育学類は、東京教育大学教育学部教育学科を引き継いでおり、東京文理科大学(1929)、東京高等師範学校(1902)、東京師範学校(1872)とさかのばれば、約150年の歴史を有しています。この間多くの教授陣と卒業生を輩出して、日本の教育界を研究と実践の両面からリードしており、「教育の筑波」という言葉は現在でも広く伝わっています。教育学類の教授陣は、国内はもとより、国際的にも通用する最先端の研究を行っています。教育について広い視野から学びたい人、教師になりたい人、子どもの発達を支援したい人、教育行政機関や教育関連企業への就職を志望する人、教育研究者を志望する人などを歓迎します。教育学類は、教育学の奥深さを感じさせてくれるはずです。教育学類で共に学べる日が来ることを、教員一同楽しみにしています。

分野紹介

専門家、研究者としての
キャリアにつながる充実した研究環境

人間形成系列 ▶

教育に関する基礎について学びます。世界や日本の歴史をさかのぼって、教育という営みや学校というものがどのように成立・展開してきたかを考えたり、今日の教育のあり方を導いた人物の足跡・思想を捉え直したりします。教育の本質や原理を考える教養を習得し、学界や教育界の多様な分野への進路選択が期待できます。

教育計画・設計系列 ▶

現代社会では、教育実践の営みは国や地方自治体あるいは機関・団体などによる支援のもとに成り立っています。教育計画・設計系列では、教育の制度、行財政・法制、学校の組織・経営について、理論や歴史、日本や諸外国の制度や実践から学びます。そして、これからの学校教育のデザインと支援を開発・提言・実践できる人材を育成します。

地域・国際教育系列 ▶

教育的営みを社会・文化とのかかわりで実践的・理論的に探究します。地域社会における教育・学習活動について幅広く理解し、公民館、図書館、博物館、カルチャーセンターやスポーツ施設等の生涯学習の場で学習支援を行う地域社会教育の専門家、あるいは国際理解教育など国際的な場での教育支援に従事する専門家の道へとひらかれています。

学校教育開発系列 ▶

児童・生徒の成長とともに学校での教師のかかわり方は変わり、社会背景とも絡みながら、学校は進化し続けます。そのような学校教育の基礎・基本を学び、さらにそれを基盤として進化する学校教育に適応し、よりよい方向に変えていく力をもつ人間を育成することが学校教育開発系列の目指すところです。また、初等教育学コースでは実践的研究力を身につけた教員としての資質・素養を学ぶことができます。



教育学類とは

教育学類では、総合的な教育学を構成するさまざまな研究領域のつながりを考えて、2つのコース(「教育学コース」「初等教育学コース」と)と4つの系列(「人間形成系列」「教育計画・設計系列」「地域・国際教育系列」「学校教育開発系列」)を提案しています。2年次になると、小学校教員免許状の取得を強く希望する学生は「初等教育学コース」に所属します。また、学生は4つの系列の科目から、関心に応じて様々な授業を履修することができます。なぜならば、1つの系列のみの知識・技能を習得することよりも、教育学に関する知識・技能を全般的に学ぶことの方が、教育に関連した優秀な理論家・実践家となるには有効であると考えているからです。教育学類の学生には、個人の専門的な研究関心を深めることと同時に、「教育学」という学問をさまざまな観点から学ぶことが求められるのです。

教育目標

人間に関する総合的な知と教養

複雑化・高度化する現代社会を見据えた的確な人間理解のために、教育学と心理学及び障害科学の基礎を包括した、学際的・総合的な知と教養を身に付けます。

教育に対する幅広い学識と体系的な見方・考え方

教育事象に対する鋭い問題関心と教育学全般についての幅広い学識を身に付け、教育事象についての総合的かつ体系的な見方・考え方を学びます。

教育専門家的資質

教育問題に対する理論的思考と現場体験との交流・融合を通して、学校、地域、国・自治体、企業、国際機関などの様々な「教育の現場」で必要とされる教育専門家としての資質を培います。

教育学の基礎的研究能力

教育に関する研究課題を設定し、データを分析し、説得力ある結論を導く実証科学的思考力とともに、その成果を表現する能力を培い、将来的に教育学研究の第一線を担う人材としての基盤を育成します。

授業科目

筑波大学は創設当初より、教養課程と専門課程というような区別を設けず、教養教育的な科目(「基礎科目」と専門教育的な科目(「専門基礎科目」「専門科目」)を有機的に連携させた教育課程(カリキュラム)を編成しています。

1年次の授業科目は、「基礎科目」と「専門基礎科目」が中心です。「専門基礎科目」には「教育学類共通科目」のほか、「人間学群コア・カリキュラム」のような人間学群に共通する入門科目があります。1年次の履修では、教育学に加えて、心理学と障害科学という人間学群に属する他の学問分野を学ぶことができます。また、2年次になると、「教育学コース」と「初等教育学コース」に分かれて、「教育学類共通科目」と「専門科目」を履修することになります。2年次に履修する授業は、1年次に履修する授業と比べると専門性が高くなるのが特徴です。また、「教育インターンシップ実践演習」や「教育学研究法」のように、さまざまな体験を通して、教育学を実践的に学ぶことができます。そして、3年次には「専門科目」を履修することで、教育学を専門的に学ぶ機会が増大します。先に教育学類には4つの系列があることを説明しましたが、3年次には4つの系列の授業を全般的に学ぶとともに、特に関心のある1つの系列の授業を集中的

に学ぶこととなります。こうして身に付けられた教育学の専門的知識が、4年次に取り組むこととなる「卒業研究」の基礎となります。

これ以外に、教員免許を取得する学生は、「教職科目」を履修することになります(ただし、小学校教員免許の取得を目指す学生は、原則として2年次に「初等教育学コース」に所属したうえで履修します)。教員免許に必要な「教育実習」は、筑波大学の場合、4年次に行うこととなります(小学校教員免許の場合、原則として3年次に行う)。また、社会教育主事の資格を取得する学生は、「社会教育主事科目」を2年次・3年次に集中的に履修することになります。さらに、筑波大学には、学生が人間学群・教育学類という垣根を越え、他の学群・学類の授業を自由に履修できるという特徴があります。これが、「その他」の科目です。

大学の授業は、高校時代とは異なり、学生の主体性が基本となります。自ら学ぶことを通してのみ、学問の奥深さと面白さを学ぶことができるのです。

開設授業科目の例

- 教育哲学演習**
(人間形成系列)
 個性の伸張と社会性の育成という対立的要素を含んだ二つの教育目的をいかに両立させるか、という近代教育が抱えてきた課題について、現代の教育に関わるさまざまな問題を取り上げながら考察します。各自が関心のあるテーマをもとに、幅広い側面から考えます。
- 教育制度論**
(教育計画・設計系列)
 「学校教育制度をつくってみる」という観点から、学校教育を構成する主要な制度的要素を取り上げ、現行制度の根拠とその改革の可能性について検討します。授業ではジグソー法による協調学習も取り入れ、受講生相互で検討しながら考えを深めます。
- 教育改革の国際比較**
(地域・国際教育系列)
 諸外国の教育改革に着目し、各国の教育をめぐる現代的な諸課題について、日本も含め国際比較の観点から考察します。授業では、前提となる各国の教育理念・制度・政策についての理解を深めつつ、受講生の発表をもとに議論を行い、テーマについて検討します。
- 社会認識教育論**
(学校教育開発系列)
 学校教育で展開される社会認識を高める方法について、その理論と方法を、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れながら概説します。具体的なテーマとしては、サービス・ラーニング、多文化教育、まちづくり学習、主権者教育、人権教育などを取り上げます。

教育学類カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次
基礎科目	<ul style="list-style-type: none"> ●総合科目(学問への誘い・ファーストイヤーセミナー) ●総合科目(学士基盤科目) ●体育 ●第1外国語 英語 ●第2外国語 初修外国語 ●情報 	<ul style="list-style-type: none"> ●体育 	<ul style="list-style-type: none"> ●総合科目(学士基盤科目-高年次向け-) 	
人間学群 専門基礎科目	<ul style="list-style-type: none"> ●人間学Ⅰ ●教育基礎論 ●学校の経営・制度・社会 ●心理学概論 ●障害科学Ⅰ又はⅡ ●キャリアデザイン入門 	<ul style="list-style-type: none"> ●人間フィールドワークⅠ～Ⅲ ●人間学Ⅱ ●心理学類・障害科学類の開設科目 		
教育学類		<ul style="list-style-type: none"> ●教育インターンシップ基礎論 ●教育インターンシップ実践演習 ●教育学研究法A ●教育学研究法B 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育学実践演習 	
専門科目				<ul style="list-style-type: none"> ●卒業研究
人間形成系列				教育哲学、日本教育史、日本教育史演習、外国教育史、道徳教育論、道徳教育論演習、比較道徳教育論、比較道徳教育論演習、教育思想論、キャリア教育論、教育哲学演習、キャリア教育論演習、外国教育史演習、アジア教育史、アジア教育史演習、教育思想論演習
教育計画・設計系列				教育制度論、教育制度論演習、学校経営論、学校経営論演習、高等教育論、比較教育制度論、比較学校経営論、比較学校経営論演習、教育行政論、教育行政論演習、教師教育論、教師教育論演習
地域・国際教育系列				生涯学習論、比較教育文化論、比較教育文化論演習、国際教育論、環境教育論、人権・平和教育論、言語教育論、子どもと外国語、生涯学習論演習Ⅰ、生涯学習論演習Ⅱ、地域と教育、比較高等教育論、比較高等教育論演習、社会教育論、教員政策と国際協力、教育改革の国際比較、教育社会学Ⅰ、教育社会学演習Ⅰ、教育社会学探究Ⅰ
学校教育開発系列				教育課程論、学習指導論、教育学、視聴覚教育論、学習情報処理論、教育臨床学、教育臨床学演習、社会認識教育論、数学教育論、科学教育論、児童文学論、理科教育論、数学教育史、カリキュラム開発演習、学習指導論演習、児童文学論演習、数学教育論演習、特別活動論、特別活動論演習、海外授業研究演習、海外授業研究実習、初等外国語活動、初等特別活動論、生徒・進路指導論、教育相談論、初等特別支援教育、初等総合的な学習の時間の指導法、教育心理学、教職論、日本史概論、地理学概論、地誌概論、社会学概論、心理学概論、哲学概論、初等教科教育法、初等国語、初等社会、初等算数、初等理科、初等生活、初等音楽、初等図画工作、初等体育、初等道徳教育論、初等家庭、教育実習(小学校)、教職実践演習(小)、初等外国語、初等特別活動論

※ 教員免許の取得を目指す場合は上記に加えて教職科目(教員資格を得る上で履修を定められた科目、教育実習を含む)を修得する。
 ※ 社会教育主事資格の取得を目指す場合は、履修を定められた社会教育に関する科目を修得する。



心理学類

College of Psychology



心理学類 学類長
山田 一夫



心理学は、人間の心と行動を科学的にまた実証的に探究する学問です。私たちは、日常生活の中で、文字を読み、景色を愛で、思い出にふけり、喜んだり、悩んだりといった心的活動を体験します。心理学では、誰しもが経験する様々な心的活動を実証的に研究します。しかし、このような心的活動は、手にとって直接的に「メジャー」をあてて測ることができませんから、何らかの方法で間接的に測ることになります。そこに心理学の研究の難しさと創造性を発揮できる醍醐味があります。

日々の生活の中で私たちが「当たり前」にこなしていることに対して「なぜ?」と好奇心を持てるみなさん、筑波大学心理学類で心の仕組みの不思議を探検してみませんか。

心理学類とは

心理学を学ぶことのできる大学は全国に数多くありますが、筑波大学心理学類ほど、長い歴史を通して、一つの学科で広い分野にわたって心理学の研究者を擁している大学はありません。心理学類では、異なる心理学分野を専門とする約30名の教員が学類生の教育に携わります。「これも心理学なの?」と思われるかもしれない様々な「心理学」が筑波大学にはあります。是非、多くを学び、「これは面白い!」と思える分野に出会い、強く魅了されて欲しいと思います。

心理学は、人間の心や行動がかかわることすべてが研究対象となりますので、間口が広く、かつ深い人間理解が可能となるたいへん魅力的な学問です。心理学は一般的には文系の学問と捉えられていることが多いですが、理系に強い人が力を発揮できる学問でもあります。そのため、入試科目の選択肢は幅広く対応しています。

教育目標

入学後は、1・2年次で心理学の基礎的な知識だけではなく、心理統計や方法論という科学的な研究を行うための手段を学び、また専門の英書を読みこなし、実際の心理学の実験や調査に協力者として参加することで、机上の学問に留まらず、心理学の研究を身をもって体験します。2・3年次ではより主体的に選択して専門分野の講義を受けつつ、演習で最新の研究動向を勉強します。同時に、教員の指導の下、個人またはグループで研究計画を立て、実験や調査をし、データを集めて分析し、その結果を発表するという一連の研究実習を行います。そして、4年次には各自の興味関心に応じた分野で卒業研究を行い、卒業論文を作成します。社会には心理学の知識や研究成果を生かせる場が数多くあり、一般企業に就職する人も多いのですが、専門を生かした、例えば、少年鑑別所や刑事施設の法務技官(心理)や家庭裁判所の調査官、児童相談所の児童心理司・心理判定員などの職に就く人もいます。また、研究者やより高度な専門職職業人を目指して大学院へ進学をする学生が半数近くにのびります。

分野紹介

心理学の専門分野と心理学類で学べる内容のマッチング

生理、比較、感覚知覚 ▶

視覚、聴覚、嗅覚などの感覚や知覚の興味深い現象やその仕組み、人と動物のこころの共通性や違い、学習・記憶、感情、動機づけ、ストレスなどにかかわる脳神経系やホルモンの多様なメカニズムについて学ぶことができます。

認知、学習、心理測定 ▶

記憶や認知の基本的な仕組み、学びを支える動機づけや創造性のあり方、学びや人間関係を通じた能力や自己認知の変化、人々の教えあいと学びあいのプロセスとそれを支えることばの役割、こころの変化を測定する方法などについて学ぶことができます。

発達、生涯発達、発達臨床 ▶

対象とする年齢によって、幼児、児童、青年、老年の心理学に大きく分かれますが、一生の発達を統合的に扱うこともできます。テーマを絞って認知の発達、感情の発達、行動の発達といった点から学ぶこともできます。それぞれの年齢層で表れる問題の理解とケア、発達支援についても学ぶことができます。

社会、対人関係、組織 ▶

対人関係の心理、インターネットやマスメディアの影響などの社会現象、攻撃行動のような社会行動の病理的側面、感情と行動の関連、組織の中の人間同士の相互作用、キャリア発達などについて広く学ぶことができます。

臨床、カウンセリング、人格 ▶

心理的障害や不適応に関する基礎理論や臨床的方法について学ぶとともに、ストレスの問題など個人及び集団のこころと身体のウェルビーイングについて心理学的視点から学ぶことができます。また人格の理論と病理、犯罪・非行、家族、カウンセリングを支える理論と技術についても学ぶことができます。



授業科目

心理学類のカリキュラムは、幅広い内容を偏りなく学ぶことができるように編成されています。

専門基礎科目では、一般的な心理学の基礎知識や心理統計や実験実習など方法論の習得を目指します。専門科目には、より多彩な内容が含まれており、とくに3年次の終わりに行う卒業研究セミナーから4年次で行う卒業研究へとつながる流れは心理学類における教育の総決算です。

実験心理学に関連した授業科目からは、視覚、聴覚、嗅覚などの感覚や知覚の興味深い現象やその仕組み、人と動物の心の共通性や違い、学習・記憶、感情、動機づけ、ストレスなどにかかわる脳神経系やホルモンの多様なメカニズムについて学ぶことができます。

教育心理学に関連した授業科目からは、人々の教えあいと学びあいのプロセスの仕組み、とくに学びを支えることばなどの社会文化的仕組みや、記憶や認知現象などの基本的仕組み、そして学びを通じた能力の発達や変化、さらに心の変化を測定する方法などについて学ぶことができます。

発達心理学に関連した授業科目は、対象とする年齢によって、幼児、児童、青年、老年の心理学に大きく分かれますが、一生の発達を統合的に扱うこともできます。テーマを

絞って認知の発達、感情の発達といった点から学ぶこともできます。それぞれの年齢層で表れる問題の理解とケアについても学ぶことができます。

社会心理学に関連した授業科目からは、対人関係の心理、インターネットやマスメディアの影響などの社会現象、攻撃行動のような社会行動の病的側面、感情と行動の関連、組織の中の間人同士の相互作用、キャリア発達などについて広く学ぶことができます。

臨床心理学に関連した授業科目では、心理的障害や不適応に関する基礎理論や臨床的方法について学ぶとともに、ストレスの問題など個人及び集団の心と身体のウェルビーイングについて心理学的視点から学ぶことができます。また人格の理論と病理、犯罪・非行、家族、カウンセリングを支える理論と技術についても学ぶことができます。

以上のように、心理学類では、学生の皆さんひとりひとりの興味・関心に応じて、心と行動への多様なアプローチを身につけることができます。講義や少人数での演習もたくさん用意されており、同じ曜日や時限に複数の授業科目が用意されているため、どれを履修すべきか入学後に悩むかもしれません。

開設授業科目の例

- **心理学英語セミナー** 心理学研究では、英語の文献から情報を得るスキルは必要不可欠です。心理学の複数の領域における基礎的な英語の論文や書籍の講読を通じて、英語の読解力、表現力を高めると同時に、心理学研究における考え方、研究の進め方、論文のまとめ方を学びます。
- **心理学実験** 心理学にかかわる基礎知識と技術を体験的に習得するため、様々な専門分野について、実験と実習を行います。実験者と参加者の立場をそれぞれ体験することに加え、レポートを作成することで、各分野におけるデータ解析の仕方や、論文の書き方を学びます。
- **心理学上級** 臨床心理学、カウンセリング心理学、発達臨床心理学、青年心理学、認知心理学、教育心理学、産業心理学、社会心理学、犯罪心理学、学校心理学、知覚心理学、計量心理学、自己心理学、動物心理学、行動神経科学などの分野について、講義や演習を行う専門科目群です。
- **公認心理師の職責** 心理専門職の国家資格である公認心理師の職責について、実務経験のある教員から学ぶ科目です。公認心理師の役割、法的義務及び倫理、情報の適切な扱いや、具体的な業務をはじめとして、生涯学習への準備や、多職種連携についても概要を知ることができます。

心理学類カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次
基礎科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合科目(学問への誘い・ファーストイヤーセミナー) ● 総合科目(学士基盤科目) ● 体育 ● 第1外国語 英語 ● 第2外国語 初修外国語 ● 情報 	<ul style="list-style-type: none"> ● 体育 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合科目(学士基盤科目-高年次向け-) 	
人間学群	<ul style="list-style-type: none"> ● 人間学Ⅰ ● 教育基礎論又は学校の経営・制度・社会 ● 障害科学Ⅰ又はⅡ ● キャリアデザイン入門 	<ul style="list-style-type: none"> ● 障害者・障害児心理学 		
専門基礎科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 心理学概論 ● 心理学研究法 ● 心理学統計法Ⅰ・Ⅱ ● 心理学統計法実習 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人間フィールドワークⅠ～Ⅲ ● 人間学Ⅱ ● 教育学類・障害科学類の開設科目 		
心理学類		<ul style="list-style-type: none"> ● 心理学英語セミナー ● 心理学実験 	<ul style="list-style-type: none"> ● 心理学研究実習Ⅰ・Ⅱ 	
専門科目		<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床心理学概論 ● 知覚・認知心理学 ● 学習・言語心理学 ● 感情・人格心理学 ● 神経・生理心理学 ● 社会・集団・家族心理学 ● 発達心理学 	<ul style="list-style-type: none"> ● 卒業研究セミナー 	<ul style="list-style-type: none"> ● 卒業研究
		<ul style="list-style-type: none"> ● 教育・学校心理学 ● 産業・組織心理学 ● 司法・犯罪心理学 ● 心理的アセスメント 		
		心理学上級科目群	動物心理学、行動神経科学、社会行動の神経科学、認知心理学、教育心理学、発達臨床心理学、中高年の心理学、青年心理学、産業心理学、臨床心理学、犯罪心理学、学校心理学、知覚心理学、社会心理学、感情・臨床心理学、カウンセリング心理学、計量心理学、自己心理学、実験社会心理学など	



障害科学類

College of Disability Sciences



障害科学類 学類長
宮本 昌子



「障害科学」は教育学、心理学、生理学、社会福祉学等を複合させて「障害」を考える比較的新しい学問分野です。

「障害」というと、一般的には深刻で辛い側面を思い描かれがちですが、日本のような成熟した少子高齢化社会では、頭を柔らかくし、弱いところだけでなく強みに注目し、逆転の発想で問題解決できる人材が必要になるでしょう。

障害科学類の大学生活では、障害についての知識が深まるとともに、人間を観察する力や、様々な事象を多方面から捉え思考する力が身につくと思います。また、この分野の学びには、相手の立場も良く理解できるような資質を持っていることが大変重要です。健康で思う存分に学び、今しかできない経験を積んでほしいと願っています。

障害科学類とは

障害科学類は、障害を探究し、人間の本質を探究し、人類と社会に貢献する人材を育てる、わが国では他に類を見ないユニークな学類です。障害のある人々への具体的なサポート、その基盤となる基礎的な研究、そして人間の本質そのものを探究します。

1951年、わが国最初の障害児教育の専門学科である東京教育大学教育学部特殊教育学科が設置されました。1973年の筑波大学への移転を機に、特殊教育学科は心身障害学へと転換しました。心身障害学では、それまで学童期中心の障害児教育から、乳幼児から高齢期までの障害児・者の生涯に渡る総合的支援へと研究領域が拡大されました。さらに2007年、心身障害学は、障害科学に名称を変更し、教育学、心理学、医学・生理学、社会福祉学等を含め、障害の科学的解明と障害児・者の支援を目指す総合的な分野としてスタートしました。

教育目標

障害科学類には「障害科学」「特別支援教育学」「社会福祉学」の3つの学位に対応した履修モデルを設定しています（「障害科学履修モデル」「特別支援教育学履修モデル」「社会福祉学履修モデル」）。この3つのモデルに共通した人材養成の目的は次のとおりです。

「乳児から高齢者までの感覚、運動、認知、言語などの機能の障害、健康や高齢・発達に関わる障害、障害をめぐる環境や社会・文化的課題に関する基礎的知識と支援方法を、教育・心理・福祉・医療などの領域から総合的に身に付け、共生社会の創造に貢献する、国際的に通用する能力をもつ人材を養成します。」

分野紹介

専門家、研究者としての
キャリアにつながる充実した研究環境

障害科学 履修モデル

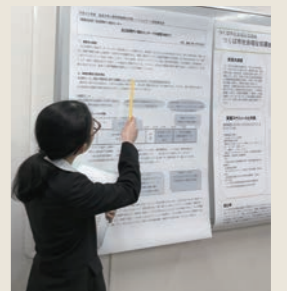
障害科学類の基本的な履修形態です。障害科学の全体的な理念・概念の理解を基に、障害科学が包含する特別支援教育、障害心理・生理、障害福祉等の全領域に関して、視覚障害学、聴覚障害学、知的・発達・行動障害学、運動・健康・高齢障害学、音声・言語障害学、障害原理論、障害福祉学の基礎的な知識や技能を修得します。さらに、この分野を新たに開拓していくための研究方法の学修として、臨床研究、実験や調査、文献研究で用いられる多様な技術の基礎を修得します。

特別支援教育学 履修モデル

わが国における特別支援教育に関わる先導的な研究・教育を担う専門家の養成を目指すものです。特別支援教育とは、これまでの特殊教育において培ってきた専門性及び新たに求められる専門性に依拠して、障害がある幼児児童生徒はもとより、さらに地域における発達障害などの教育的ニーズに応じた指導・支援を行うという、いわば新たな学校教育の枠組に基づく教育といえます。特別支援教育学履修モデルでは、障害科学類の充実した人的資源を活用して、特別支援学校教諭一種免許状に対応した豊富な科目群を設け、履修者に特別支援教育に関わる広い教養と深い専門性を身に付けさせることを意図しています。障害科学類では、5つの教育領域（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）のすべてを担当できる特別支援学校教諭免許状の取得が可能です。

社会福祉学 履修モデル

社会福祉学を探究するとともに、社会福祉士を目指す「社会福祉学履修モデル」を設定しています。現代の社会福祉が対象とする高齢者、障害児者、及び、家庭養育環境や発達に伴う生活問題を抱えた子どもたちについて、ノーマライゼーションという福祉理念を実現するための施策や援助方法を、包括的かつ科学的に学修します。また、従来の社会福祉学の枠組みを越えて、「障害」をめぐる教育や医療・リハビリテーションとの連携について、社会福祉の現場実習を含めて融合的に学修します。指定された科目を履修することにより、社会福祉士国家試験受験資格を得ることができます。



授業科目

障害科学類では、幼児から高齢者までの感覚、運動、認知、言語などの機能の障害、健康や高齢・発達に関わる障害、障害をめぐる環境や社会・文化的課題に関する基礎的知識と支援方法を、教育・心理・福祉・医療などの領域から総合的に身につけていきます。4年間の学びを通じて、共生社会の創造に貢献し、国際的に活躍できる人材を養成できるようカリキュラムが編成されています。

障害科学類では学修の参考のために「障害科学履修モデル」、「特別支援教育学履修モデル」、「社会福祉学履修モデル」の3つの履修モデルを示しています。詳細は「分野紹介」を参照ください。

1年生では主にモチベーションを高め、学びの基礎を整えられるようカリキュラムが工夫されています。具体的には、「障害科学Ⅰ・Ⅱ」により障害科学の基礎的な原理を学び、「障害科学実践入門」において実践現場を見学・参観し、障害科学探究のモチベーションを高めます。また、「障害原理論」・「障害者福祉論」・「障害者教育基礎理論Ⅰ・Ⅱ」を通して専門分野を知ること、障害科学を全体的に理解します。

1～2年生からは障害別の心理・生理・病理・教育方法に関する授業や社会福祉の制度や支援に関する授業等で各専門領域の基礎や方法論を学び、「心理学統計法Ⅱ」と「障害科学研究法入門・実習」を通して研究方法の基礎を学びます。また、少しずつ進路についても考えられるよう「キャリアデザイン入門」、「人間フィールドワーク」等もあります。

3～4年生になると実習や演習を通じて研究手法を修得するほか「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において、修得した研究手法を用いて実際に研究を計画・実行し、卒業研究をまとめていきます。なお、「社会福祉学履修モデル」の場合には1～2年生から社会福祉士国家試験受験資格に対応した指定科目が入ってくるほか、3～4年生から「ソーシャルワーク演習」等の専門科目において、専門的な知識と実践技術、技能を演習形式で学んでいきます。「特別支援教育学履修モデル」の場合には、特別支援学校教諭免許状取得に必要な専門科目の履修のほか、3～4年生には「特別支援教育実習」（附属特別支援学校での教育実習など）を通じて基礎的実践能力を身に付けていきます。

開設授業科目の例

- 障害科学Ⅰ・Ⅱ** 障害科学について基礎的な知識を教授することを目的とした授業です。Ⅰでは障害に関する生理・心理学の立場から、Ⅱでは障害原理論・特別支援教育学や障害福祉学の立場から障害科学について考えます。障害科学類を担当する教員20人以上が講義するオムニバス方式の授業です。
- 障害科学実践入門** 附属視覚特別支援学校、聴覚特別支援学校、桐が丘特別支援学校、大塚特別支援学校、および久里浜特別支援学校の見学・授業参観を通して、障害のある子どもと彼らへの支援の実践について理解を深める授業です。
- 障害科学研究法 入門・実習** 障害科学の研究にかかわる基礎知識と技術を教授することを目的とした授業です。入門では講義を通じて、実習では研究技術を体験的に修得するため、各種の実験や実習を行います。実習では博士後期課程に在籍する大学院生との関わりもあります。
- Current Topics in Disability Sciences** 英語でのディスカッションや、発表を中心とした授業です。この授業では障害科学に関する基礎知識を英語で学ぶとともに学んだ知識やアイデアを海外に発信するために必要な英語力やプレゼンテーション力の修得を目指します。

障害科学類カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次
基礎科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合科目(学問への誘い・ファーストイヤーセミナー) ● 総合科目(学士基盤科目) ● 体育 ● 第1外国語 英語 ● 第2外国語 初修外国語 ● 情報 	<ul style="list-style-type: none"> ● 体育 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合科目(学士基盤科目-高年次向け-) 	
人間学群 専門基礎科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 人間学Ⅰ ● 教育基礎論 ● 学校の経営・制度・社会 ● 心理学概論 ● キャリアデザイン入門 ● 障害科学Ⅰ・Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人間フィールドワークⅠ～Ⅲ ● 人間学Ⅱ ● 教育学類・心理学類の開設科目 		
障害科学類 専門基礎科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 障害科学実践入門 ● 障害原理論Ⅰ・Ⅱ ● 障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ ● 障害者教育基礎理論Ⅰ・Ⅱ ● Current Topics in Disability Sciences ● 障害科学研究法入門・実習 			
専門科目			<ul style="list-style-type: none"> ● 卒業研究Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 卒業研究Ⅱ
		<ul style="list-style-type: none"> ● 障害科学履修モデル 	生理病理特講、障害と心理、障害児教育総論、社会福祉原論など 自閉症スペクトラム障害臨床実習、重複障害の理解と支援、聴覚障害とリテラシー、高齢障害学、卒業研究Ⅰ・Ⅱ、日本の障害科学など	
		<ul style="list-style-type: none"> ● 特別支援教育学履修モデル 	生理病理特講、障害と心理、障害児教育総論など 視覚障害教育概論、聴覚障害児の教育と指導法、運動障害教育学、健康障害の指導法、知的障害学校教育論、特別支援教育実習など 卒業研究Ⅰ・Ⅱ、日本の障害科学など	
		<ul style="list-style-type: none"> ● 社会福祉学履修モデル 	医学概論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉原論など 社会福祉士国家試験受験資格取得に対応した専門科目、相談援助の理論と方法、相談援助の基盤と専門職、ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク実習など 卒業研究Ⅰ・Ⅱ、日本の障害科学など	

海外交流

人間学群では、筑波大学で交流協定を結んでいる海外の大学に留学する機会を設けています。

協定校への留学は以下の大きなメリットがあります。

- ・留学期間は、本学での在籍年限に換算される
- ・授業料相互不徴収に関する協定を締結している協定校であれば、相手大学での授業料が免除
- ・留学先で履修した単位が本学の卒業条件となる単位に認めることが出来る
- ・学内外の奨学金に申請可能

協定校の例：ドイツ・ミュンヘン大学、米国・南インディアナ大学、韓国・釜山大学他多数。

詳しくはHP(<https://www.bgi.sec.tsukuba.ac.jp/partner-organizations/>)をご覧ください。これ以外に、海外研修にも積極的に参加しています。



海外交流

大学院

大学院

筑波大学は、研究大学として大学院が充実していることが特徴です。学群卒業後にそのまま大学院に進学して、博士前期課程(2年)修了後に研究所、学校、企業等に就職する方も多くいます。さらに博士後期課程(3年)にも進学して、10年近くをつくばで過ごしたのち、国内外の大学教員・研究職を目指すことも可能です。人間学群に関係の深い分野として、以下の学位プログラムが設置されています。

教育学学位プログラム

博士前期課程は、国内外の大学や研究機関等において教育学諸分野の教育・研究に従事し、各分野の研究を牽引する研究者を養成する「教育基礎科学サブプログラム」、次世代の教育をリードする高度専門職としての学校教員を養成する「次世代学校教育創成サブプログラム」、国際教育に関する研究と学習を行い、修士の学位を取得するとともに、国際バカロレア教員資格(IB educator certificates)を取得できる「国際教育サブプログラム」の3つのサブプログラムに分かれています。博士後期課程では、政策と実践の改革を国際的に先導することのできる教育学研究者ならびに高度専門職業人を養成しています。

心理学学位プログラム

心理学学位プログラムでは、心理統計学、認知心理学、感覚・知覚心理学、教育心理学、社会心理学、発達心理学、そして臨床心理学まで、幅広い分野の専門家の養成を行っています。心理臨床学サブプログラムでは、前期課程で公認心理師と臨床心理士第1種指定校のカリキュラムを整備しています。後期課程では、心理基礎科学及び心理臨床学のどちらのサブプログラムでも、大学や研究機関に就職する研究者の養成を行っており、これまで多数の優れた研究者を輩出しています。産業技術総合研究センターや国立精神・神経医療研究センターと連携大学院協定を結び、これらの機関の優れた研究者も指導教員として参加しています。

学際系学位プログラム

これらの学位プログラムは、複数の学問領域から研究室が集まる学際領域の大学院です。社会人向けや、東京キャンパスを本拠地とする学位プログラムも含まれています。いったん就職してから、社会人向けの学位プログラムで学位取得を目指す卒業生もいます。

ニューロサイエンス学位プログラム

本学位プログラムでは、心の基盤である脳について、様々な側面から研究します。基礎神経科学、心理学、行動学を専門とする研究者に加え、臨床医学(精神神経医学)、臨床障害科学、生物学などを専門とする研究者・臨床家が集結し、広範な研究フィールドを基盤として、「ニューロサイエンス」分野の国際競争力を持つ人材を育成する日本で唯一の大学院教育課程です。博士前期課程の段階から、世界に通用するレベルの研究を行い、その成果を世界に発信できる高度な語学力・コミュニケーション能力を有する人材の育成に取り組んでいます。

カウンセリング学位プログラム・カウンセリング科学学位プログラム

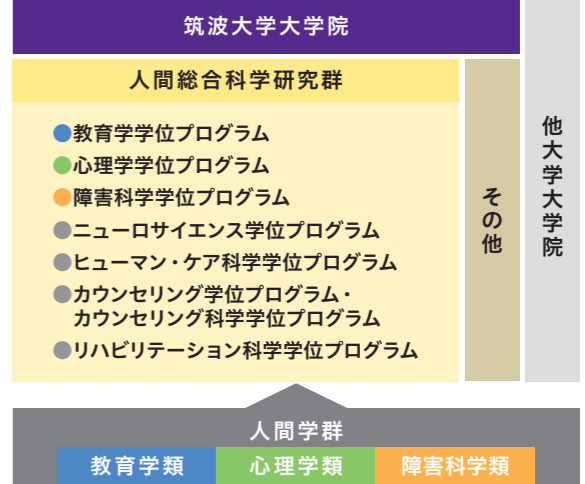
現職社会人(過去に社会人経験のある方を含む)を対象とした東京キャンパスにある大学院です。博士前期課程(カウンセリング学位プログラム)では、様々な社会的な場で生じる課題を心理学の観点からとらえなおし、問題解決や実践、社会実装に生かす研究を推進しています。博士後期課程(カウンセリング科学学位プログラム)でも同様に、心理・社会・発達・教育・保健・医療・福祉などの幅広い領域における課題の解決を目指す、科学者・実践家モデルを基盤に教育や研究を行います。研究型高度専門職業人を養成することを目的とした、博士後期課程です。

ヒューマン・ケア科学学位プログラム

3年制博士後期課程の本学位プログラムでは、学際融合の広い視野と高度な研究能力を身につけ、ヒューマン・ケアに係る課題解決に貢献する人材を養成しています。修了者の多くは大学・研究機関で研究者、高度専門職業人として活躍しています。本学位プログラムは、2001年に学際系専攻として開設されたヒューマン・ケア科学専攻を母体としており、心理学、医学、看護学、保健学、教育学、体育学など、多岐にわたる専門領域の理論や研究法が学べ、複数の専門分野の教員から研究指導を受けられることが、大きな特徴となっています。

リハビリテーション科学学位プログラム

東京キャンパスにある社会人向け大学院です。ここには、老年学、障害者福祉、運動障害学、発達障害心理学、視覚障害学、理療教育学、職業リハビリテーション、ダイバーシティ&インクルージョンなどを専門とする教員が配置されています。博士前期課程の特色は、リハビリテーション分野における幅広い視野の獲得と専門性の深化を図ることです。博士後期課程の特色は、包括的なリハビリテーション分野に関する課題解決に焦点を当てた研究型高度専門職業人を養成することです。リハビリテーション関係の研究者、専門職業人に対して、リハビリテーションの包括的基盤教育を行うとともに、国際的・学際的な研究の成果と方法論を習得し、他職種と連携して、職場や社会での諸課題について、科学的・実践的・開発的に解決し、社会に貢献する学際的な能力の習得を目指します。



体験記

福山 怜加さん

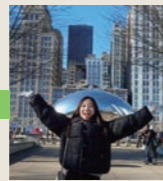
教育学類 4年
留学先：イギリス
Oxford Brookes University
(オックスフォード・ブルックス大学)



私は、「教育における多文化共生」を学ぶことをテーマにイギリスに留学しましたが、現地での生活は毎日が発見と反省の連続でした。授業や現地の学生との交流を通して、自分を相対的に捉え直すことができ、また文化的アイデンティティと教育の関係の重大さにも気づくことができました。限られた大学生活の一部を日本と離れて過ごすことは大きな挑戦ではあったものの、挑戦した分だけ成果を得ることができた、とても充実した経験でした。

上地 花奈さん

心理学類 4年
留学先：アメリカ
University of New York at Oswego
(ニューヨーク州立大学オスウェゴ校)



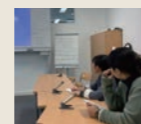
私は約10ヶ月間、アメリカの大学に留学しました。特に印象に残っているのは、スペイン語の授業です。日本での授業と異なり、スピーキングがメインであったため、新しい言語を話す楽しさを実感することができました。留学中の一番の思い出は寮生活です。留学生が多く滞る寮で、毎週様々なイベントが開催されていたため、多様なバックグラウンドや考え方を持つ人たちと交流することができ、大きく視野が広がりました。留学を考えている方は、ぜひチャレンジしてみてください！

青山 陽佳里さん

障害科学類 4年
研修先：ドイツ
Ludwig-Maximilians-Universität
München (ミュンヘン大学)



私は9日間、「令和2年度筑波大学・DAADパートナーシップ・プログラム」の一環で、ドイツのミュンヘン大学での研修に参加しました。滞在中は現地の聴覚障害者を有する児童生徒が通う学校や聴覚障害者に関連する病院・施設等を見学しました。見学先では実際に働いている職員の方々にお話を伺うこともでき、日本とは違う学校のシステムや環境、障害児教育に対する考え方など、貴重な意見交換ができたと思います。



卒業後の進路

【学群としての取り組み】

人間学群では大学生活4年間だけでなく、大学生活の入り口と出口についての取り組みも行っています。入学前には高校生に対して人間学群の大学生活について情報提供の場を設けています。入学後はクラス担任や指導教員が生活と学習を支援します。そして大学生活の後に続くさらに長い社会人生活のために、学群生の卒業後の人生設計についての取り組みに力を入れています。

1年次春学期の「ファーストイヤー・セミナー」は、大学生活を知り、有意義な4年間を送るための授業です。「人間学群生の進路」についてのレクチャーを聞いて、新入生は将来をイメージし、目標達成のための行程をデザインし始めます。1年次秋学期には、就職委員会が担当する授業の「キャリアデザイン入門」があります。授業内容は、①キャリアの研究者による基調講演、②進路決定をしたばかりの4年生たちからのトーク(a.大学院進学内定者、b.公務員・教員内定者、c.企業・団体職員内定者、d.留学経験者)、③各学類を卒業した社会人による専門職についての講演、④各学類からの大学院進学レクチャーです。自分たちと同じ学習環境にいた先輩のことばは、自分にもできる、自分もなれる、と思わせてくれる大きな刺激となります。この授業をきっかけにして、自分の進路を定めて、数年後に自分が話す側として帰ってきてくれる学生もたくさんいます。

就職委員会では、人間学群における学びと関連させて、人間学群生ひとりひとりのキャリアデザインを支えています。

【大学としての取り組み】

筑波大学では学生みなさんの「学び」と「キャリア」を関連づけるため様々な取り組みがなされています。詳しくは「筑波大生のための進路応援サイト」をご覧ください。

https://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/?page_id=348

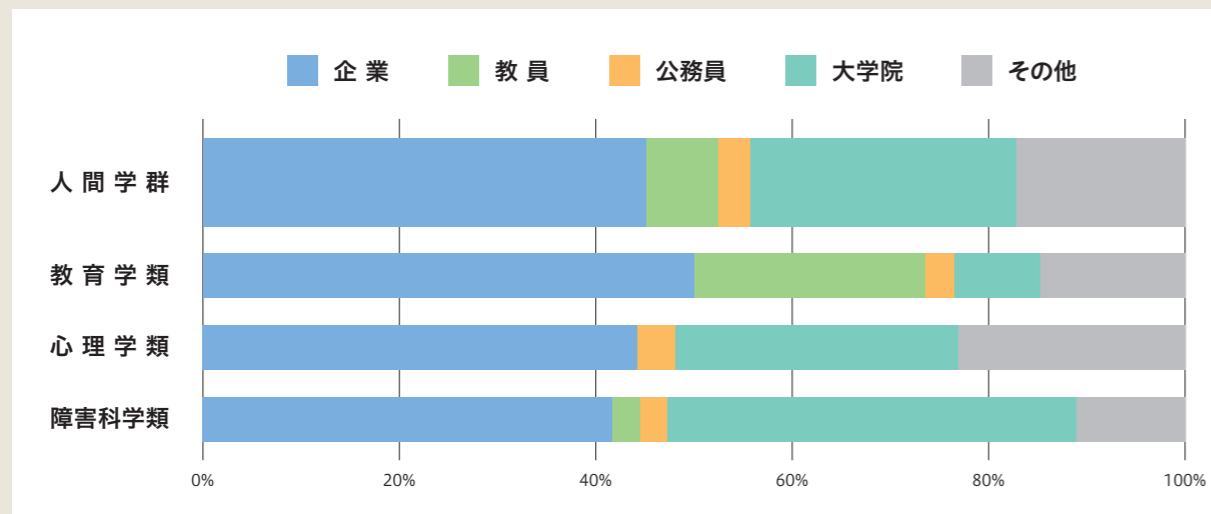


大学卒業後の主な進路

教育学類	心理学類	障害科学類
<p>大学院進学の例</p> <p>筑波大学大学院 ▶ 教育学学位プログラム (国際教育サブプログラム、次世代学校教育創成サブプログラム、教育基礎科学サブプログラム)</p> <p>他大学大学院 ▶ 北海道大学、東京大学、お茶の水女子大学、東京学芸大学</p>	<p>大学院進学の例</p> <p>筑波大学大学院 ▶ 心理学学位プログラム、ニューロサイエンス学位プログラム</p> <p>他大学大学院 ▶ 東北大学、京都大学、東京大学、東京学芸大学、お茶の水女子大学、早稲田大学、自治医科大学</p>	<p>大学院進学の例</p> <p>筑波大学大学院 ▶ 障害科学学位プログラム、ニューロサイエンス学位プログラム</p> <p>他大学大学院 ▶ 一橋大学、お茶の水女子大学、早稲田大学、自治医科大学</p>
<p>就職先の例</p> <p>〈企業・団体〉</p> <p>マスコミ・出版 ▶ 共同通信社、日本文教出版、早川書房、リクルート、テレビ長崎</p> <p>教育 ▶ ベネッセコーポレーション、学究社、秀英予備校、新教育総研、ステップ、富山育英センター、東進ハイスクール</p> <p>金融・保険 ▶ 三菱東京UFJ銀行、みずほフィナンシャルグループ、三井住友銀行、常陽銀行、野村証券、第一生命保険</p> <p>商社・流通 ▶ 三井物産、住友商事、伊藤忠商事、セブン-イレブン・ジャパン、ニトリ、しまむら、日本コープ共済生活協同組合連合会</p> <p>サービス ▶ NRIデータiテック、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、キヤノンマーケティングジャパン、パソナ、全日本空輸、名古屋鉄道、JR東日本</p> <p>建設・不動産 ▶ 積水ハウス、レオパレス21</p> <p>福祉 ▶ 日本赤十字、社会福祉法人筑波会筑波愛児園</p>	<p>就職先の例</p> <p>〈企業・団体〉</p> <p>出版 ▶ 東洋経済新報社、中央出版</p> <p>教育 ▶ ベネッセコーポレーション、秀英予備校、アイデアヒューマンサポートサービス</p> <p>金融・保険 ▶ 野村証券、アメリカンファミリー生命保険、明治安田生命保険、三井住友海上火災保険、常陽銀行、沖縄銀行</p> <p>商社・流通 ▶ 三井物産、セブン-イレブン・ジャパン、ユニクロ、良品計画、ニトリ</p> <p>情報・通信 ▶ NTTドコモ、日立ビジネスソリューション、ディー・エヌ・エー</p> <p>医療・福祉 ▶ 星総合病院、メディポリス医学研究財団、ニチイ学館、社会福祉法人梓友会、社会福祉法人三篠会、全国自立援助ホーム連絡協議会</p> <p>運輸・旅行 ▶ 全日本空輸、首都高速道路、日本自動車連盟</p> <p>電機 ▶ 京セラ、日本ヒューレット・パッカー</p>	<p>就職先の例</p> <p>〈企業・団体〉</p> <p>福祉 ▶ 日本点字図書館、東京都障害者スポーツ協会、全国社会福祉協議会、横浜YMCA、ベネッセスタイルケア、社会福祉法人南山城学園、社会福祉法人キャマロード</p> <p>サービス ▶ 日本総合研究所、日本公文教育研究会、博報堂DYメディアパートナーズ</p> <p>金融・保険 ▶ かんぽ生命保険、JCB、常陽銀行、群馬銀行</p> <p>情報・通信 ▶ 郵便事業、日本エンタープライズ、ネットワークインフォメーションセンター、日本GPSソリューションズ、インフォテック朝日、ソフトバンク</p> <p>流通・飲食店 ▶ そごう・西武、スターバックスコーヒージャパン</p> <p>運輸 ▶ 全日本空輸、JALエクスプレス</p>
<p>〈学校教員〉</p> <p>公立 ▶ 茨城県、東京都、千葉県、岐阜県、静岡県、愛知県、滋賀県、大阪府、兵庫県、広島県、福岡県、鹿児島県、横浜市</p> <p>私立 ▶ 麗澤中学校・高等学校、東洋英和女学院中学部・高等部</p>	<p>〈学校教員〉</p> <p>公立 ▶ 群馬県、神奈川県、島根県</p>	<p>〈学校教員〉</p> <p>公立 ▶ 北海道、青森県、福島県、茨城県、栃木県、埼玉県、千葉県、東京都、長野県、長崎県、三重県</p>
<p>〈官庁・自治体〉</p> <p>法務省、自衛隊、福島県、茨城県、東京都、千葉県、愛知県、富山県、大阪府、茨城県警、つくば市、柏市、横浜市、四日市市、大阪市</p>	<p>〈官庁・自治体〉</p> <p>法務省、法務省東京矯正管区、水戸地方検察庁、八王子少年鑑別所、関東地方更生保護委員会、国土交通省航空保安大学校、茨城県、栃木県、群馬県、東京都、新潟県、奈良県、つくば市、横浜市、名古屋市、広島市、福岡市</p>	<p>〈官庁・自治体〉</p> <p>福島県、茨城県、埼玉県、東京都、神奈川県、愛知県、岐阜家庭裁判所、茨城県福祉相談センター、和歌山県警、八潮市、横浜市、川崎市、豊中市</p>
<p>〈独立行政法人等〉</p> <p>日本貿易振興機構、筑波技術大学</p>	<p>〈独立行政法人等〉</p> <p>理化学研究所、防災科学技術研究所、日本学生支援機構、日本芸術文化振興会、勤労者退職金共済機構</p>	

卒業後進路状況

(令和4年度)



取得可能な免許・資格

教育学類

College of Education

教員免許^{※1}

- 小学校一種免許状
- 中学校一種免許状(社会)
- 高等学校一種免許状(地理歴史、公民)

他の資格^{※2}

- 社会教育主事
- 学芸員
- 司書教諭

心理学類

College of Psychology

教員免許^{※1}

- 高等学校一種免許状(公民)

心理学関係

- 認定心理士(社団法人日本心理学会)

公認心理師受験資格が取得可能な教育体制も整えてあります。

他の資格^{※2}

- 社会教育主事
- 学芸員
- 司書教諭

障害科学類

College of Disability Sciences

教員免許^{※1}

- 高等学校一種免許状(福祉)
- 特別支援学校教諭一種(視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱)

社会福祉学関連

- 社会福祉士国家試験受験資格

他の資格^{※2}

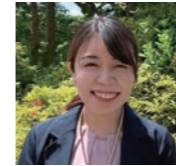
- 社会教育主事
- 学芸員
- 司書教諭

※1 他学類の授業を履修することにより、他の教科の免許状も取得可能です。

※2 卒業要件以外の教職科目や博物館学、学校図書館司書教諭講習に相当する科目の単位を修得すれば、教員や学芸員、司書教諭の資格が得られます。

卒業生からのメッセージ

School of Human Sciences
OB・OG Message



中村 咲耶さん

教育学類 (令和元年度卒業)

ベネッセコーポレーション



令和元年度に教育学類を卒業し、現在はベネッセコーポレーションに勤務しています。教育学類からベネッセへという一見妥当に思える進路選択かもしれませんが、私は入学してから卒業までとても進路に悩みました。高校時代は教師を目指していましたが、物事を多角的に学ぶことができ、幅広い選択肢のある大学へ進みたいという理由から筑波の教育学類を志望しました。実際に教育学類では、教職課程はもちろんのこと、様々な分野の先生方と共に、これまで思いも寄らなかった視点で教育を学ぶことができました。また、学類の垣根を越えて受けることのできる授業や課外活動等も含め、沢山の素敵な出会いや刺激があり、その過程で多くの道に触れたことが現在の進路にも繋がっているのではないかと感じています。今は「急速に変化する時代」と言われますが、私が入社したタイミンはコロナ禍でまさに新しいことの連続でした。教育という正解のないテーマに対して、異なる視点から同士と考えてきた経験こそ、今の業務に、そしてどの仕事にも生きる力だったと思います。教育に関心がある方、教師を目指している方、そうではない皆様にとっても、教育学類では沢山の学びがあります。多くのことに触れ、素敵な大学生活を過ごしてください！



八木橋 彩さん

教育学類 (令和元年度卒業)

文部科学省



私は文部科学省に入省し、現在は教科書課で教科書検定の事務をしています。教科書検定とは、出版社の作成した図書が教科書として子ども達の手に渡っていくために、誤りが書かれていないかを専門家チェックしていくものです。昨年度は社会科、今年度は道徳科と理科を担当しています。私は高校生のときに「社会をつくるのは人、人をつくるのは教育だな」と漠然とした興味を持ち、教育学類を選びました。教育行政を学びたくて入学したのですが、教育学の様々な授業を受け、行政だけではなく、生涯学習やジェンダー、キャリア教育、特別支援など多くの分野に興味を湧き、教育への思い入れが深まりました。そして、日本の教育の根幹に携わりたいという想いから、文部科学省への就職を決めました。教育学の様々な分野への関心が、どんな仕事でも頑張れる今の気持ちに繋がっている気がします。社会人になった今も学ぶことがたくさんあり、日々勉強です。筑波大学に興味がある皆さまには、ぜひこの広大なキャンパスで、のびのび過ごして、めいっぱい勉強して、たくさん遊んでほしいです。空気は澄んでいるし、図書館は大きいし、一人暮らしは成長した気持ちになれます！学びのある充実した4年間を過ごせますように！



蓮沼 寛介さん

心理学類 (平成30年度卒業)

筑波大学院
ニューロサイエンス学位プログラム博士後期



私は平成30年度に心理学類を卒業し、現在は筑波大学院の博士後期課程に通い、神経科学の研究を行っています。心理学類で学ぶ中で、動物を用いた実験的アプローチに興味を持ったことが、神経科学の道へと進むきっかけとなりました。これには、心理学特有の懐の広さが良い意味で影響してくれたと思います。私は入学当初、臨床心理学や社会心理学に強いあこがれを持っていました。これはおそらく多くの人がそうだと思います。しかし心理学には、教育心理学や認知心理学、実験心理学など多くの分野が存在しています。私はそれらを心理学類で学び、ヒトや動物の垣根を超えた幅広い知識を獲得する中で、最終的に今の研究と出会うことができました。そして、私はそれから研究を楽しんでいただけなのですが、気が付けば大学院の博士後期課程にまで進学しております。これぞまさに、分野横断型を地でいく心理学ならではの面白さかと思えます。



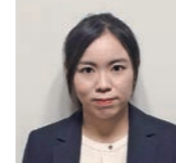
三村 のどかさん

心理学類 (令和元年度卒業)

国立研究開発法人科学技術振興機構



令和元年度に心理学類を卒業し、科学技術振興機構で働いています。現在は研究成果情報サービスやオープンサイエンス支援に関わる仕事をしています。心理学を勉強した者の進路としては、研究職や心理職を希望しがちかもしれませんが、私のようにそうでない人も多います。では、心理学類で学んだことは卒業後に立たないのかというと、そんなことはありません。例えば、心理学統計で学んだ知識は情報サービスの利活用状況の分析や業務改善に役立ちましたし、認知心理学や社会心理学に関する知識は様々な人と業務を進めるに当たって自分を冷静にさせてくれていると感じます。現職に興味を持ったのも、卒論を通して研究活動の一端に触れたことがきっかけです。私が心理学類に入学した理由は、大きな志があったわけではなく、ただ当時最も興味を惹かれた学問が心理学だった、という漠然としたものでしたが、その結果かけがえのない経験や学び、出会いがあり、時にふがいな自分に自己嫌悪したりしつつ、それらを糧にして今があるのだと思います。筑波は、興味の向くままにいくらでも学び、経験できる環境がある面白くて楽しい場所です。是非めいっぱい楽しんでください。



黒澤 由子さん

障害科学類 (令和元年度卒業)

法務省



私は学類卒業後、国家公務員総合職として法務省矯正局に入省し、現在、霞が関にある法務省で勤務しています。国家公務員総合職とは、キャリア官僚とも呼ばれ、政策の企画立案をしたり、法案の作成や予算編成など国の行政の中核を担う業務に携わり、中央府省庁の幹部候補として働きます。法務省矯正局は、犯罪や非行をした人を収容し、再犯防止など国民の安全や安心の実現に取り組んでいます。入省後の3年間は、少年院と鑑別所で教官として勤務しましたが、そこでは障害科学類での学びが大いに活かたと感じています。子どもの非行の背景には、発達障害や、摂食障害などの精神疾患があることも多く、福祉の支援に繋げる必要があることも多いからです。心理学や教育的観点に加えて、福祉的な観点から目の前の子どもと向き合えることは自身の強みになっています。成人犯罪に関しても福祉のニーズは高く、これまでの罰を与えるという考え方だけでなく、社会復帰後の就労支援など再犯防止が重要だと言われています。様々な仕事がAIに置き換わり、想像(創造)力や個の人間力、多様性への理解が求められる現代、当事者の生の声を感じながらの障害科学類での学びや障害分野の最新の研究や考え方の理解、多方面で活躍する先生方や素敵な仲間との出会いはきっと将来の大きな財産になるでしょう。



篤田 直人さん

障害科学類 (令和元年度卒業)

特別支援学校教諭



私は現在、視覚特別支援学校(盲学校)で社会科の教員として働いています。個人的な生徒たちに向き合い、試行錯誤することは大変ですが、面白く、充実した日々です。そのような生活で、大学で学んだ幅広い知識がとても役に立っています。大学の授業では専門分野である視覚障害だけでなく、知的障害や発達障害など、専門領域以外の障害種についても深く学ぶことができます。授業で得た知識は、様々な視点から生徒への指導を考えることに繋がっています。一方、研究室では視覚障害教育の核となる考え方を学ぶことができました。改革が推奨され、変化の激しい学校現場において、自分の中に芯をもって生徒に向き合い続けることができたのは、指導教員の先生が親身な指導をしてくださり、本質的な考え方を伝えてくださったからです。論文執筆や教育相談などでの丁寧な指導は、1つの障害領域に複数の教員がいる筑波大学だからこそ、得られたものだと思います。また、5領域の特別支援学校教諭免許状を取得できる大学は全国的にも少なく、それらの大学の中で筑波大学は最大規模の学生を有しています。留学生も多く、部活動も盛んです。障害科学という学問を深く学ぶことはもちろん、多様な価値観や考え方に触れる機会、様々なことに挑戦できる環境が筑波大学にはあります。皆さんが障害科学類に進学し、充実した大学生活を送ることを願っています。



教員紹介

教育学類		College of Education	
磯田 正美	数学教育学	田中正弘	高等教育論
算数・数学の学習指導法の研究と数学教育の国際共同研究をしています。		大学教育の質の向上改善に興味があります。内部質保証制度の日英比較などの研究を行っています。	
井田 仁康	社会科教育学	田中 マリア	道徳教育
社会科、特に地理を通して人間の理性や感性をどのように高めていくのかということに関心があります。		本当に全ての人のための道徳教育とは何か、特定の枠組みに固定されぬよう射程を広く書いて探究しています。	
唐木 清志	社会科教育学	徳永 智子	教育社会学
社会科教育学、特にその中でも公民教育に焦点を絞り、小学校から高校まで、幅広く研究を進めています。		複数の文化や言語のほごまを生きる子ども・若者の強みが発揮される教育や社会のあり方を研究しています。	
國分 麻里	社会科教育学	平井 悠介	教育哲学
日本やアジアの教育を歴史やジェンダーの視点から研究しています。		教育の公共性論、教育の正義論が研究テーマです。その中で、家庭領域についても深く考えようとしています。	
佐藤 博志	学校経営学	平田 諭治	日本教育史
学校と学級との在り方、新しい学びの実現に関心があります。日豪を中心に国際比較研究を行っています。		近現代日本の教育と学問の歴史に関心があります。	
清水 美憲	数学教育学	蒔苗 直道	数学教育学
国際比較を通して、日本の学校数学カリキュラムと授業の優れた点を解明し、海外に向けて発信しています。		数学教育の歴史について、戦後教育改革や数学教育現代化の研究をしています。	
濱田 博文	学校経営学	山本 容子	理科教育学
学校教育の改善を推進するための組織的要因(校長と教員のリーダーシップや保護者の参加など)に関心を持っています。		人間と自然との関わり方について考える環境倫理の視点を取り入れた環境教育、生物教育の研究をしています。	
樋口 直宏	学習指導学	朝倉 雅史	教師教育学
教師の指導方法、思考力の育成といった教育方法学に関する研究や、小中一貫教育の実践に取り組んでいます。		教職を取り巻く実態と課題、その中で教員はどのように成長・発達していくのかに興味があります。	
藤井 穂高	教育制度学	遠藤 優介	理科教育学
専門は教育制度論です。幼児教育から義務教育を経て高等教育まで比較の観点から研究しています。		理科授業を規定する多様な要因に目を向けつつ、理科教育の目的やドイツ科学教育論を中心に研究しています。	
藤田 晃之	キャリア教育学	勝田 光	人文科教育学
専門は初等中等教育段階のキャリア教育の実践及び政策分析です。日・米・デンマーク比較研究を行っています。		臨床心理学、なかでも非行・犯罪臨床やアディクション臨床が専門です。エビデンス・ベースをキーワードに、非行少年や犯罪者、アディクション患者に対する有効な治療の開発に関する研究を行っています。	
上田 孝典	生涯学習・社会教育学	菊地 かおり	比較・国際教育学
日本の地域社会における教育活動や中国を中心に東アジアの社会教育、生涯学習について研究しています。		グローバル化の中での「国民」教育の変容について、シティズンシップ教育や移民の教育に注目して研究しています。	
長田 友紀	人文科教育学	京免 徹雄	特別活動学
国語科の授業をどうすればより意味あるものができるかの研究を行っています。特に、コミュニケーションを重視した授業開発を国内外で進めています。		学級活動や学校行事などの教科外活動に関心があり、国際比較を通して日本型教育の特質を研究しています。	
川口 純	比較・国際教育学	田中 怜	カリキュラム学
国際教育開発に関心があります。特に途上国のインクルーシブ教育や教員政策を研究しています。		学校内の学習と学校外の生活を接続するカリキュラムについて、ドイツ教授学を基盤として研究を進めています。	
金 玟辰	社会科教育学	名畑目 真吾	人文科教育学
地理的探究に基づく学習を導入している世界の地理カリキュラムを対象とした比較研究を行なっています。		外国語・英語教育を専門として、英文読解の認知メカニズムや小学校英語について研究しています。	
小松 孝太郎	数学教育学	古田 雄一	教育政策学
学校数学における説明・証明、数学教育における課題設計・教材開発やICT活用に関する研究を行っています。		日本の教育政策を研究しています。子どもの声を通じた学校や政策の改善、市民性の育成に関心があります。	
タスタンベコワ・クアニシ	比較・国際教育学	早瀬 博典	社会科教育学
多言語教育政策におけるマイノリティ(少数民族、移民)の母語教育保障を研究しています。フィールドは旧ソ連諸国(ロシア、中央アジア諸国)です。		インクルージョンと社会正義に基づく社会科教育、公民教育、学校教育に関する研究を進めています。	

心理学類		College of Psychology	
綾部 早穂	感覚知覚・認知心理学/嗅覚	高橋 阿貴	行動神経科学/行動遺伝学
意識的・無意識的な経験によって情報の認知の仕方がどのように変わるのかについて興味があります。特に二オイの認知メカニズムの研究を行っています。		社会行動や情動に関わる生物学的基礎の研究をマウスを用いて行っています。	
安藤 智子	発達臨床心理学	バスクアロツト・アキツレ	Experimental Psychology, Behavioural Neuroscience
親子や家族の関係性や、感情・アタッチメントに焦点化した心理療法に関する研究・実践をしています。		Multisensory/visual/auditory/haptic cognition in humans; memory modulation via non-invasive brain stimulation in humans; human spatial cognition.	
大塚 泰正	臨床心理学	藤 桂	社会心理学
働く人たちのメンタルヘルスをよくしたり、いきいき職業生活が送れるようになるための研究と実践を行っています。		インターネット上での人々の振舞いや、メディアにまつわる様々な社会問題を研究しています。	
岡田 昌毅	キャリア心理学/産業・組織心理学	松田 侑子	発達臨床心理学
キャリア発達に関連する理論とビジネス経験を融合し、個と組織のあり方について考えています。		労働者、最近では特に保育者や教員のメンタルヘルスやキャリア発達を中心に研究を行っています。	
佐藤 有耕	青年心理学	水野 雅之	発達臨床心理学/キャリア心理学/心の健康教育
思春期・青年期とはどのような時期なのかを自己、感情、友人関係などからとらえたいと思っています。		大学生が健康に大学生活を送れるように、自身を大切にしようとするセルフケアとメンタルヘルスに関するリテラシーの観点から研究を進めています。	
杉江 征	臨床心理学	安 婷婷	臨床心理学
自律訓練法の基礎的・臨床的研究、大学生と学生相談、臨床心理・教育臨床の実践研究などです。		留学生のメンタルヘルス、援助要請について研究をしています。	
外山 美樹	教育心理学	慶野 遥香	臨床心理学
人間と自然との関わり方について考える環境倫理の視点を取り入れた環境教育、生物教育の研究をしています。		聴覚環境の倫理的意識決定や職業倫理教育に関心を持って研究を行っています。大学生の相談にも携わっています。	
濱口 佳和	発達臨床心理学/発達心理学	菅原 大地	臨床心理学/感情心理学/ポジティブ心理学
児童・青年の社会的情報処理、攻撃性、主張性。親の養育スキルと育児ストレスなどについて研究をすすめています。		ポジティブ感情の機能に興味があり、最近では精神疾患との関連について研究しています。	
原田 悦子	認知心理学/認知工学/認知科学	千島 雄太	教育心理学
実験的基礎研究では「認知的高齢化」ならびに「人の学習、知識の獲得」、フィールド研究では、人にとっての「使いやすい」研究を行っています。		時間的展望を大きなテーマとして、人が過去・現在・未来の自己をどのように認識しているかに焦点を当てて研究しています。	
原田 隆之	臨床心理学/犯罪心理学	仲田 真理子	神経科学/行動神経内分泌学
臨床心理学、なかでも非行・犯罪臨床やアディクション臨床が専門です。エビデンス・ベースをキーワードに、非行少年や犯罪者、アディクション患者に対する有効な治療の開発に関する研究を行っています。		マウスをモデルとして、集団の形成をはじめとした情動・社会行動が脳内でどのようにコントロールされているかを研究しています。	
藤生 英行	カウンセリング心理学	生田 目光	臨床心理学
カウンセリング訓練法、外在化・内在化問題行動に共通するリスク要因・保護要因、症状悪化に関与する認知的脆弱性の3本柱の研究を進めています。		ポジティブ心理学の観点から、ボディイメージや食行動に関する研究を行っています。	
山田 一夫	行動神経科学/行動神経内分泌学	松田 壮一郎	行動デザイン/応用行動分析学/発達心理学/自閉スペクトラム症
動物を用いて、学習・記憶の脳内メカニズム、特に忘却に関する研究に取り組んでいます。		「行動変容の技術を用いて、人々がより幸せを感じられるように」を目標にして、人工知能研究者と連携しながら、最新の行動イメージング技術を用いた研究をしています。	
飯田 順子	学校心理学	山口 一大	計量心理学/教育測定学/ベイズ統計学
小中高校での学校心理学・スクールカウンセリングの実践や研究を行っています。学校心理学における海外との比較文化的研究にも、興味を持っています。		認知診断モデル・診断分類モデルの諸問題の解決、ベイズ統計学の近似推論法の教育測定学への応用、心理学研究における統計学の役割についての考察	
尾野 裕美	産業・組織心理学/キャリア心理学	小川 緑	感覚知覚心理学
若年就業者のキャリアに関する研究や、男性の育休に関する研究に取り組んでいます。		過去の経験などが後の二オイの知覚に与える影響を主な研究テーマとしています。また、おいしさなどの「味」の知覚にも興味を持っています。	
加藤 克紀	動物心理学	豊島 理公	行動神経科学/動物行動学/行動薬理学
若齢期における社会的環境と社会性の発達との関係、空間構造と情動行動との関係などに興味をもって研究しています。		経験による情動・社会行動の変容、ラットの孤独感・共感性、統合失調症様ラットの行動特性と脳内機構、カフェインの記憶改善作用に関心があります。	
川上 直秋	社会心理学	中澤 佳奈子	臨床心理学
主に、実験的な手法を用いて、社会的情報(顔など)の無意識的な認知(印象形成など)について研究しています。		妊娠中から産後にかけての女性やその家族のメンタルヘルスをテーマに、研究(調査や介入)と臨床を行っています。	

障害科学類		College of Disability Sciences	
岡 典子	障害原理論	左藤 敦子	聴覚障害学
障害者教育・福祉に関する歴史研究、障害と社会・文化に関する研究、東アジアのインクルーシブ教育に関する比較研究を行っています。		聴覚障害教育、聴覚障害児の言語・認知の発達に関する心理学的研究を行っています。	
小澤 温	障害福祉学	宮内 久絵	視覚障害学
障害者に対するケアマネジメントとその評価に関する研究を行っています。		インクルーシブ教育の在り方について低発生頻度障害・ハイニーズとして知られる視覚障害児童生徒に焦点をあてて質的に研究しています。	
柿澤 敏文	視覚障害学	山中 克夫	老年臨床心理学/高齢者福祉論
見えない・見えにくい視覚障害のある人々と共に生きる社会の在り方を、科学の視点から探求しています。		老年臨床心理学を専門とし、特に認知症によって生じる心理・社会的問題に取り組んでいます。	
川間 健之介	運動・健康・高齢障害学	米田 宏樹	知的・発達・行動障害学
運動障害児者の心理、指導法の研究を行っています。		知的障害教育、インクルーシブ教育、学校・施設・カリキュラム開発史の研究を行っています。	
熊谷 恵子	知的・発達・行動障害学	ラミチャネ・カマル	視覚障害学
学習障害児の学習支援(算数困難等)に関する研究、発達障害児者の感覚過敏に関する研究を行っています。		諸外国における障害と教育、雇用の連関に関する研究を行っています。	
竹田 一則	小児科学/障害心理・生理・病理学	和田 恒彦	視覚障害学
病気のこどもの心理・生理・病理・教育や障害者の支援について研究しています。		理療(鍼、灸、あん摩マッサージ指圧)科教育、スポーツ障害、障害者スポーツに関する研究をおこなっています。	
鄭 仁豪	聴覚障害学	徳竹 忠司	視覚障害学
聴覚障害児・者の言語・認知・社会性の発達に関する心理学的研究を行っています。		視覚障害児への理療技術指導法・東洋医学的理療法(理療)の生体反応に関する研究をしています。	
柘植 雅義	知的・発達・行動障害学	名川 勝	障害福祉学
特別支援教育推進に関する教育学的・行政学的研究/学校における指導・授業に関する教育的・心理学的研究を行っています。		障害がある人の地域生活や権利擁護に関心があり、特に知的障害がある人の意思決定支援に取り組んでいます。	
野呂 文行	知的・発達・行動障害学	濱田 淳	視覚障害学
自閉スペクトラム症の子どもの強みや興味を活かした指導法の研究に取り組んでいます。		視覚障害者に対する鍼灸・手技療法の教授法と泌尿生殖器の病気に對する治療法を開発しています。	
原島 恒夫	聴覚障害学	飯村 大智	音声・言語障害学
聴覚障害児(者)の聴覚情報処理、早期教育に関する臨床発達心理および環境論的アプローチをしています。		吃音(きつおん)などの言語コミュニケーションの障害メカニズムと支援法を研究しています。	
宮本 昌子	音声・言語障害学	大村 美保	障害福祉学
吃音と早口言語障害について、適切な評価・支援法を開発するための研究を行っています。		障害者の雇用・就労・所得保障、および地域生活支援に関する研究をしています。	
八重田 淳	障害福祉学	河野 禎之	障害福祉学
職業リハビリテーションカウンセリングに関する研究を行っています。		認知症やLGBTQ+を中心に、ダイバーシティ&インクルージョンをテーマとした研究に取り組んでいます。	
山田 実	運動・健康・高齢障害学	工藤 滋	視覚障害学
加齢に伴う身体機能低下の予防(介護予防)に関する研究を行っています。		視覚障害者のあん摩マッサージ指圧、鍼灸の職業課程における学習教材、触覚指導について研究しています。	
魚野 翔太	知的・発達・行動障害学	三孟 亜美	音声・言語障害学
神経発達症児・者の社会的コミュニケーションの特徴に関する実験心理学的研究を行っています。		読み書きや言語発達の障害について研究しています。LDや多言語使用の子どもの支援をしています。	
岡崎 慎治	知的・発達・行動障害学	末吉 彩香	知的・発達・行動障害学
知的障害児及び発達障害児の注意機能に関する生理心理学的研究を行っています。		発達障害者のキャリア支援や障害学生支援に関する研究をしています。	
小島 道生	知的・発達・行動障害学	森地 徹	障害福祉学
知的障害児及び発達障害児の自己に関する研究、ダウン症児者の発達支援に関する研究を行っています。		障害のある人が自分で自分の人生を切り開いていくために必要となることについて研究しています。	
小林 秀之	視覚障害学	小泉 愛美	知的・発達・行動障害学
視覚障害児の学習活動に対する教育的支援に関する研究を行っています。		知的・発達障害児の言語・コミュニケーション発達に関する研究を行っています。	
佐々木 銀河	知的・発達・行動障害学	周 英實	音声・言語障害学
青年期・成人期の発達障害者支援やテクノロジーを活用した障害のある方の支援方法を研究しています。		読み書きや言語発達の障害について研究しています。LDや多言語使用の子どもの支援をしています。	
佐島 毅	視覚障害学	矢部 愛子	障害福祉学
視覚障害学、重複障害児の心理と教育に関する研究を行なっています。		聴覚障害者のコミュニケーション情報保障、ろう学・障害学の混合手法による研究を行っています。	



入試情報・オープンキャンパス

受験生へのメッセージ

人間学群の入学定員は120人(教育学類35人、心理学類50人、障害科学類35人)です。ただし、このうち11人は総合選抜で募集して、2年次に各学類で受け入れます(教育学類3人、心理学類5人、障害科学類3人)。

人間学群で実施する入学試験には、「一般選抜(前期日程、後期日程)」「学校推薦型選抜」「グローバル選抜(国際バカロレア特別入試、私費外国人留学生入試)」があります。その概要は以下の通りですが、募集人員や試験科目等の内容は変更されることがあるので、各年度の学生募集要項や大学ホームページを参照して、常に最新の情報を入手して下さい。

一般選抜

●実施時期

大学入学共通テスト：1月
個別学力検査：前期日程 2月、後期日程 3月

●個別学力検査の試験科目

前期日程：外国語(必修)、および国語、地理歴史、公民、数学、理科から1教科選択
後期日程：論述(応答性、論理性等を評価する)

学校推薦型選抜

●実施時期：11月
●選抜方法：小論文、面接

グローバル選抜

(国際バカロレア特別入試、私費外国人留学生入試)

(1)国際バカロレア特別入試(2回募集)

●実施時期：(7月募集)7-8月、(10月募集)10-11月
●選抜方法(各回共通)：第1次選考 書類
第2次選考 小論文、面接

(2)私費外国人留学生入試

●実施時期：2月
●選抜方法：小論文、面接

また、毎年8月には筑波大学オープンキャンパスが開催されます。人間学群でも学群・学類の説明、各学類の教員による模擬授業、教員や学生による個別相談、キャンパスツアーなど、多彩なイベントが終日にわたり行われ、全国から多数の高校生・保護者で賑わっています。教員や学生と直接会うことのできる貴重な機会ですので、ぜひ参加して下さい。このほかにも、大学や学類独自に説明会やイベントを開催することがあります。



オープンキャンパスの様子

入試に関する詳しい情報は、
筑波大学ホームページの入試情報
(<https://www.tsukuba.ac.jp/admission/>)
をご参照下さい。



Q & A

Q 授業時間と授業の規模について教えてください。

A 授業は第1時限(8:40～9:55)から第6時限(16:45～18:00)にわたって行われ、学生は其中で開設されている授業の中から、各自の必要要件に従って、選択履修することになります。授業のクラスは、350人を収容する大教室での講義から、数名の出席者によるゼミ形式の授業まで、その目的や内容に応じてさまざまな形態がとられています。

Q 他学群、他学類の授業は、どのくらい受講できますか？

A 筑波大学では、隣接する分野や関連する分野にまたがって幅広く、総合的に履修できるように教育課程を編成しています。したがって、他の学群や学類の授業を、自分が所属する学類の開設授業と重なっていない曜日時限には比較的自由に受講することができます。1、2年次に受講する総合科目、あるいは関連科目(自由科目)などです。ただし、1年間に履修申請できる総単位数は原則として45単位までに制限されていますので、その範囲内で履修しなければなりません。また、実験実習の多くや一部の演習など、受講生の制限が設けられている科目もあり、全ての科目を自由に受講できるわけではありません。

Q 留学をしたいのですが、留年せずに留学することはカリキュラム上、可能ですか？

A 海外留学は幅広い視野から物事を考える習慣を身につける上で、貴重な経験です。協定を結んでいる大学に交換留学で留学することで、留学期間も筑波大学の在籍期間とみなされるほか、留学先で取得した単位の一部が本学の単位として認めら

れるため、4年間で卒業することが可能です。ただし、教員免許状等の取得を目指す場合には、実習等との兼ね合いから4年間で卒業は難しい場合もあります。また、交換留学には1年程度の準備期間が必要となりますので、入学後に早めの情報収集をはじめることをお勧めします。

Q 学生宿舎やアパートなどについて教えてください。

A 筑波大学には、大学構内に計67棟(約3,800室)の学生宿舎が設置されています。国際交流を重視したシェアハウスタイプの学生宿舎(グローバルヴィレッジ)もあります。学群の新入生は優先的に入居できるように配慮されており、1年生の多くは宿舎に入っています。詳しくは以下のHPをご覧ください。
<https://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/support-healthlife/>

Q 留学生はどれくらいいますか？

A 現在、筑波大学では2000人以上の留学生が学んでいます。大学では日本人と留学生が日常的に国際交流を行えるようイベントや交流スペースもたくさん用意されています。

Q 筑波大学では、障害のある学生についての支援はどのようにされていますか？

A 筑波大学は、障害のある学生を積極的に支援しています。詳しくは本学アクセシビリティ(ヒューマンエンパワーメント推進局)のHPをご覧ください。
<https://dac.tsukuba.ac.jp/shien/>

施設紹介



中央図書館

筑波大学には、中央、体育・芸術、医学、図書館情報学、大塚の5つの図書館があります。中でも最も大きい図書館で皆さんが学ぶ教室からも近いのが中央図書館になります。平日はもちろんのこと、土・日曜日及び祝日も開館し、みなさんの学びを支えています。



第2エリア大食堂

「二食」と呼ばれ、豊富で栄養バランスが考えられたメニューが筑波大生に愛されています。座席数も350あり、新歓イベントやパーティの会場に使われたりすることもあります。日替わり弁当も販売されており、こちらも人気です。



附属学校・東京キャンパス

筑波大学には11の附属学校があります(うち5つは特別支援学校)。人間学群では附属学校と連携して見学や授業参観、ボランティアの機会を設けており、こうした活動を通して教育や障害児教育について理解を深めることができます。



実験心理学研究室

神経科学の研究室では、心の基盤である脳の機能に、生物学的な面からアプローチしています。記憶や情動、攻撃行動などの社会行動が、脳の中でどのように表現されているのかを覗いてみませんか？



授業実習室

学校の教室をイメージして、この部屋は作られました。現在、小学校教員免許に係る講義を中心に活用されています。この教室で、学生は授業づくりを行ったり、模擬授業を行ったりと「授業」を研究する貴重な場になっています。



障害学生支援・準備室

筑波大学には障害を有する学生も多く学んでおり、人間学系系棟には視覚障害、聴覚障害、運動障害を有する学生のための部屋(支援・準備室)が設置されています。障害学生支援・準備室には点字プリンターなど、支援機器も充実しています。